



地域連携型クラウドで介護ビジネスを支援 アジアの見本、世界に誇れるシステムへ

株式会社カナミックネットワーク 専務取締役 **山本拓真氏**

介護ビジネスの品質を 向上させるASPサービス

カナミックネットワークが提供する地域連携型介護システム「カナミックASPサービス」は、介護ビジネスの業務を効率化して地域連携を強化するとともに、経営分析が行えるASP・SaaS・クラウドコンピューティング(以降ASPという)のサービスだ。10年近く前からASPの形態で提供され、介護ビジネス全般を支援するシステムへと成長してきた。その守備範囲は広く、ケアプランの作成支援、サービスの計画と実績管理、請求管理、債権管理、勤怠管理、そして各種分析機能など介護ビジネス全般をカバーするサービスがASPで提供されている。同システムの役割について同社の専務取締役の山本拓真氏は「介護ビジネスの品質を担保するもの」と語る。

介護は1人の被介護者ごとに複数の介護専門職がかかわり、チームを構成する。チーム内で情報が共有されなければ「良い介護サービス」は提供できない。そのため、サービス担当者会議の実施が義務づけられているが、介護専門職チームは多法人にまたがっているため実際に一堂に会することは難しい。山本氏は「当社のシステムは利用者の情報が一元管理され、チーム内で申し送りや介護記録を共有できます。しかも時系列で記録されるので、同時にエビデンス(証拠となる書類やデータ)

を残すことができます」と説明する。また、ショートステイの空き状況やヘルパーの空き時間など、把握しづらい情報をシステム上でリアルタイムに共有できる。インターネット地図と連動して訪問ルートを確認したり、そのルートをカーナビと連携することも可能だ。

コスト以外でも経営に貢献し 参謀としての役割を果たす

経営的な面でもその効果は大きい。業務に関するあらゆる情報が一元的にデータベース化されているので、リアルタイムに経営状況が分析できる。「介護サービスの内容も含めた正確な情報を利用して経営分析を行うことができ、スタッフの生産性や新規店舗の伸び率、モデル店舗との比較など、様々な角度から経営状態を把握することができます」と山本氏。

また、介護ビジネスそのものの形態を変えることにも貢献している。「自治体の介護の要となる地域包括支援センターへのシステム導入によって、他市の10分の1程度の拠点数でも地域連携機能を活用して民間事業者と役割分担し、高い福祉サービスのレベルを実現している自治体があります」と山本氏。自治体の運営費で考えると数億円のコスト削減効果をもたらしていることになる。その他、紙媒体からパソコンへの再入力の手間がなくなり、介護訪問時間が3倍に増えたケースなども評価され、同社は「ASP・

SaaS・ICTアウトソーシングアワード2009」(ASPIC主催)でベスト公共部門賞を受賞した。



「介護は人の技術にウエイトが偏りがちですが、業務をツールで平準化することにより、今の厳しい状況を改善することができます。システムを経費と考える方が多いと思いますが、ベテランのケアマネジャーのプランから新人ケアマネジャーが学んだり、より広範囲な対象を結びつける機能を盛り込むことによって経営者の右腕となるツールとして認識してもらえれば」と山本氏は強調する。

クリエイターの発想で 世界に誇れるシステムを作る

「顧客の要望に応えるシステム・エンジニアではなく、顧客の期待を上回り、ユーザーに感動を与えられるシステム・クリエイターがこれからのIT業界には必要」と説く山本氏は、「公的介護保険制度はアジアでは日本が先行している制度です。アジアの見本となり、世界に誇れるシステムを作りたい」と意欲を語る。日本を良くするためというプライドを持って開発したシステムは、すでに3000を超える事業所で活用されている。

同社のASPサービスが世界に誇れるシステムに成長することを期待したい。



KANAMIC NETWORK

大手ベンダーで経験を積み、現在はカナミックネットワークのシステムを支え、切り拓く存在となっている山本氏。「日本を良くするためのシステムを作っている」というプライドを持ち、世界に誇れるシステム作りに挑んでいる。